

ひょうご

TEL:078-362-7040

本社	社会部	079-281-1125
姫路支社	編集部	079-422-2073
東播支社	編集部	0798-33-5541
阪神	総局	079-563-2256
北淡	総局	078-912-4343
明北	総局	0799-22-1277
丹波	総局	0795-42-5656
大阪	総局	0796-22-3121
支社	編集部	0795-72-0540
支社	編集部	06-6447-1841
支社	編集部	050-3757-4234

国際協同組合年

国連が定めた「国際協同組合年」の今年、これを記念した国際会議が26日から30日まで、日本初の生協が誕生した神戸を舞台に開かれる。営利追求の企業組織とは一線を画し、相互扶助を軸に活動を続ける協同組合は、農協、生協、信用金庫、信用組合と幅広く、国内で3万6千団体超、組合員8千万人、世界では10億人に上る。一方で、営利主義が激しくなり、理念の形骸化も指摘される。「安心な社会」をテーマに原点を問い直す論議が繰り広げられる。

(経済部・井垣和子)



「生協の父」と呼ばれる賀川豊彦の特別展示室。協同組合の理念が掲げられている。三木市志染町青山7、協同学苑史料館

神戸舞台に国際会議



賀川豊彦

三木市にある生活協同組合コープこうべ(神戸市東灘区)の研修施設「協同学苑」。世界最初の生協、「ロッヂアール公正開拓者組合」(英国)の記念館を模した史料館には、「生協の父」と呼ばれる賀川豊彦(1888~1960)の特別展示室がある。

神戸生まれの賀川は1921(大正10)年、コープこうべの前身となる「神戸購買組合」「灘購

買組合」の創設を指導。展示室には両組合に託した理念「愛」「協同」の言葉が掲げられている。ゆかりの神戸で開かれるのは、国際協同組合同盟(ICA、本部・シユネーブ)のアジア太平洋支部の会議で、約20カ国約280人が参加する。主な議題は「災害時に

相互扶助の理念 280人参加し議論

26~30日

国際協同組合年 2008年のリーマン・ショック後の世界同時不況をきっかけに国連が制定。協同組合の可能性に着目し、貧困削減、仕事の創出などに果たす役割を強調している。

だ。中国の食品メーカーが制定。協同組合の可能性に着目し、貧困削減、仕事の創出などに果たす役割を強調している。

に派遣。これまでに累計241人が活動した。阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、人的・物的支援だけでなく、自立を促す施策も展開してきた。

みやぎ生協やJA全農みやぎ(同市)が取り扱う農産物をコープこうべの店舗でも販売。「買うことで復興の一助に」という狙いだった。

被災地の復旧・復興では、地元密着の信金や漁協、農協の役割が大きい。協議ではそうした取り組み事例も報告される。

一方で「協同組合の理念が形骸化している」との指摘も根強い。

顕著な例が2007~08年に起きた中国製冷凍ギョーザの食中毒事件

「価格競争が激化する中で協同組合の活動は難しさを増している」と協同学苑長で神戸大名誉教授の野尻武敏さん(88)。不透明な時代に存在感を発揮するには「助け合いを基本理念として、行き過ぎた市場原理主義にどう歯止めをかけるか。協同組合の役割は重い」と指摘している。

